

ハザードマップの見方

土砂災害ハザードマップ

▶ P21~P34で示す『土砂災害(特別)警戒区域』について

	土石流	がけ崩れ	地すべり
	山や谷の土砂が大雨などにより濁流となって一気に流れ下る	大雨や地震により斜面が突然崩れ落ちる	地下水の影響と重力により、斜面の一部、あるいは全部がゆっくりと下方にすべる
			
	資料提供 NPO 法人土砂災害防止広報センター	資料提供 NPO 法人土砂災害防止広報センター	資料提供 NPO 法人土砂災害防止広報センター
土砂災害(特別)警戒区域	【土石流】 	【がけ崩れ】 	【地すべり】 

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)とは

土砂災害が発生した場合に住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域のことです。

土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)とは

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



▶ 『土砂災害警戒情報』に注意!

土砂災害警戒情報は、大雨により土砂災害の危険度が非常に高まったときに北海道と気象台が共同で発表する防災情報です。

町の高齢者等避難、避難指示や自主避難の判断に活用されています。

平成22年7月には余市町にも発表されており、実際に被害が発生しました。

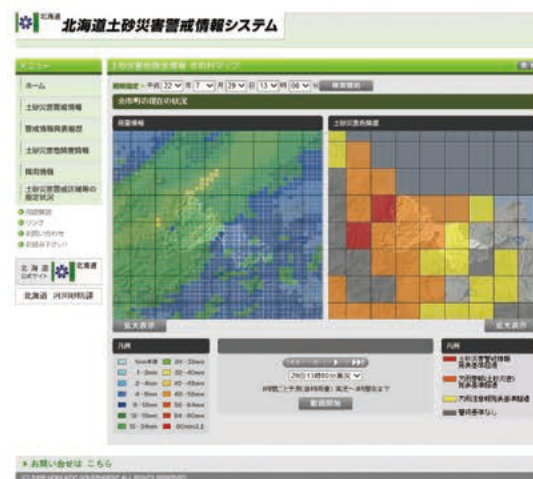


※土砂災害警戒情報(平成22年7月29日発表)

▶ 土砂災害対策

町の災害対応では、『北海道土砂災害警戒情報システム』を活用しています。

このシステムにより、町内のなかでも特に土砂災害の危険度が高まっている区域を特定し、その地域に避難情報などを発令します。



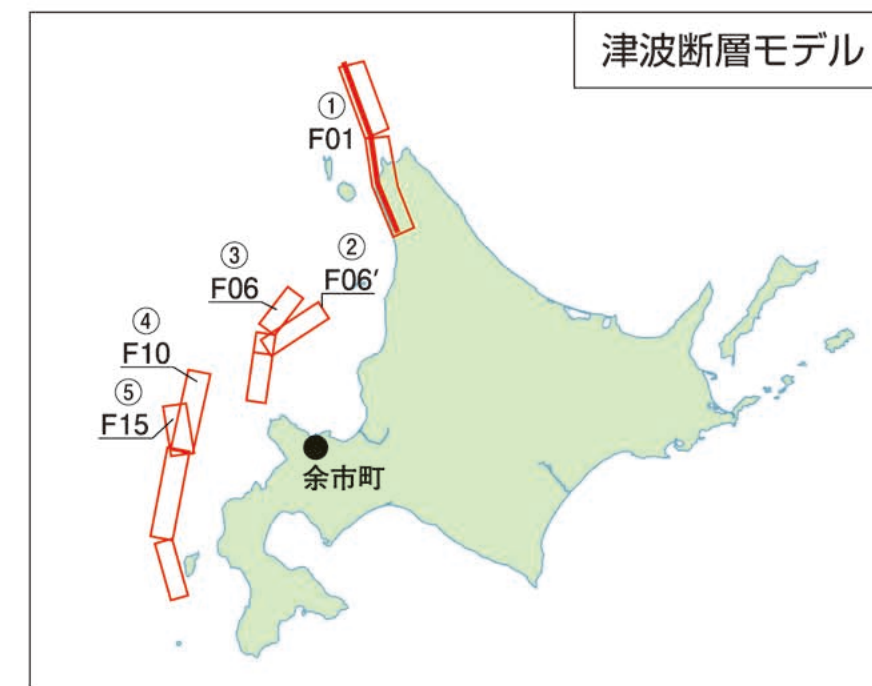
津波ハザードマップ

▶ P35~P44で示す『津波浸水想定区域』について

平成29年2月、北海道から「新たな津波浸水想定」が公表されました。これは東日本大震災の発生を踏まえた最大クラスの津波を想定したものであり、最大クラスの津波とは、数100年から1,000年に1回程度の頻度で発生する、甚大な影響を及ぼす津波を指しています。

余市町に影響が大きいと考えられる右図の5つの津波断層モデルについて、津波浸水シミュレーションが実施されました。

P21~P34ではそのシミュレーション結果に基づき津波浸水想定区域の範囲を掲載し、P35~P44では津波浸水想定区域の範囲及び浸水深を掲載しています。



▶ 避難方向

津波が発生するおそれがあり、避難する際に、避難すべき方向について記載(避難の経路を示しているものではありません。)



▶ 津波災害警戒区域(イエローゾーン)

「津波浸水想定区域」は、北海道による「津波災害警戒区域(イエローゾーン)」にも指定されています。これは、津波防災地域づくりに関する法律にもとづいたものです。

町では、この指定にもとづき、防災マップを更新して周知するなど、警戒避難体制の整備を図ります。

